

ピックアップ



東浜小学校



荻浜中学校

東浜小・荻浜中 で閉校式

母校と地域に感謝伝える

児童生徒数の減少に伴い、万石浦小学校と万石浦中学校に統合する東浜小学校と荻浜中学校の閉校式が、2月25日に各校体育館でそれぞれ行われました。

東浜小は昭和30年に荻浜小の分校から独立して開校し、荻浜中は同57年に旧荻浜中と旧東浜中が統合して誕生しました。閉校までの卒業生は東浜小が708人、荻浜中が475人となりました。

式では両校の在校生が慣れ親しんだ母校や支えてくれた家族、地域の皆さんへの感謝の気持ちを示しながら伝統の獅子風流を披露し、閉校記念碑も除幕しました。荻浜中の式では、校歌作曲者のさとう宗幸さんが駆け付けて閉校記念歌唱を行い、はなむけとしていました。

☎ 教育総務課(内線5014)



落語家 林家たい平さん

複合文化施設名誉館長に就任

いしのみき観光大使で「笑点」のメンバーとしても活躍する人気落語家・林家たい平さんの石巻市複合文化施設(マルホンまきあーとテラス)名誉館長就任式が2月7日に行われ、就任を記念して独演会も開催されました。

たい平さんは大学生の時に、自分探しの旅で石巻市を訪れ、日和山公園で北上川を眺めながら「日本一の落語家になる」と決意を固めたといいます。

笑点メンバーになった後も石巻市には足しげく通い、講演や落語を繰り広げたほか、震災後も笑いを通した支援で地域を励まし続けてくれました。

齋藤市長から名誉館長の委嘱状を受け取ったたい平さんは「日和山の桜に負けないよう、石巻に笑いの花を咲かせていきます」と抱負を述べていました。

☎ 生涯学習課(内線5052)

わたしたちのSDGsアクション!

Sustainable(サステナブル:持続可能な)
Development(ディベロップメント:開発)
Goals(ゴールズ:目標)

SDGs(持続可能な開発目標)は、地球上に住む全ての人が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくための世界共通の17の目標です。

石巻圏域定住自立圏共生ビジョンに基づく取り組みの1つとして、これまで市のみで行っていたパートナー制度を石巻圏域に拡大し、令和5年4月、「いしのみき圏域SDGsパートナー制度」が創設されましたので紹介します。
☎ SDGs移住定住推進課(内線4224)



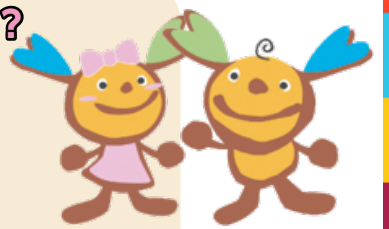
女川町PRキャラクター「シーバルちゃん」

2市1町一丸となって

石巻圏域定住自立圏共生ビジョンに基づき、圏域のスケールメリットを生かし、SDGsを推進することで地域課題の解決を図ることを目的とし、「いしのみき圏域SDGsパートナー制度」を創設しました。圏域の企業や団体全体でSDGsに取り組み、圏域が持つ豊かな地域資源を未来に残していきましょう。

どんな制度?どんなことをしていくの?

「いしのみき圏域SDGsパートナー制度」は、SDGsの普及啓発やSDGsの達成に向けた取り組みの一層の推進を図るため、SDGsの普及啓発などに取り組む企業などを登録・紹介する制度です。企業・団体においてはできることからSDGsに取り組んでもらうほか、パートナーを対象としたセミナーへの参加や、イベントなどにおいて市や町とともにSDGsの推進に向けた取り組みなどを行っていく予定です。



東松島市公式キャラクター「イト・イ〜ナ」

いしのみき圏域SDGsパートナー制度が (石巻市・東松島市・女川町) スタートしました!



石巻市観光PRキャラクター「いしびよんず」

パートナー企業による出前講座を始めます!

パートナー企業が講師となり、その企業のもつ特色を生かしたSDGsに関する出前講座を開催します。受講対象は原則、圏域内に在住・在勤・在学している10人以上の方で構成された団体やグループなどです。市ホームページに掲載の講座一覧表をご覧になり、要望の講座がありましたら、SDGs移住定住推進課まで連絡ください。各企業の特色を生かした講座内容となっており、様々な角度からSDGsにつながる取り組みについて学ぶことができます。☎☎ SDGs移住定住推進課(内線4224)

パートナー募集中!!

いしのみき圏域SDGsパートナーは、随時募集中です。興味のある企業・団体は気軽に問い合わせください。
☎☎ SDGs移住定住推進課(内線4224)



みんなのた場

サークル仲間 ⑭

着物リメイク教室「ひまわり会」

自分だけの洋服作り もったいないを趣味に

着物リメイク教室の「ひまわり会」は第1、3土曜日の月2回、それぞれ午前と午後、河北総合センタービッグバンの2室で活動しています。50〜70歳の女性約30人が通っており、おしゃべりを楽しみながら手を動かしています。

自分や家族が着なくなっただけで眠ったままだった「もったいない」着物を、ワンピースやチユニック、コートといった普段から着られる洋服に生まれ変わらせる教室です。それぞれ絹や麻の着物をほだいてアイロンがけし、反物にして持ち込みます。

会の代表は東京都の専門学校で洋裁を習った地元の三條榮子さん。製図も裁断も三條さんが行ってくれるので、それぞれがすることは、作りたいものを考えて、ミシンで縫って仕上げるだけ。初心者も気軽に取り組みめるのが魅力です。完成した服を見せ合っては、会話を弾ませていました。

既製品が世にあふれる中、着物の柄を生かして手作りした洋服は二つとなく、外で着れば「あら、いいこだ。どこで買ったの」と注目的。「自分で縫ったの」と言えば驚か

れるそうです。仕上がりが雑だと恥になるので、皆、しっかりと縫い方を教わっています。

例えば高価な服。帯や切れ端も一点物のバッグや小物になります。親の着物をリメイクすれば、思い出を着ているようなもの。ある女性は「親と一緒にいるよう」と言います。三條さんは「絹の着物は体に良く、冬は温かく、夏は涼しいです」と、リメイクしても着て分かる昔の文化の魅力を語っていました。

東日本大震災前から活動し、1年間の休止を経て平成24年に本格的な会として立ち上がりました。楽しんで取り組んでもらうのが目的で、市内だけでなく、登米市や仙台市、白石市からも通います。秋にはビッグバンを会場にした「かほく文化祭」に参加し、リメイクした服を展示しています。

問い合わせは三條さん(62-4636)まで。



着ている服は全て手作りのリメイク品です



代表の三條さんに教わりながら、楽しく活動しています

石巻専修大学

「研究室をのぞいてみたら...」

石巻市と石巻専修大学は、地域社会の発展と人材育成および学術の振興を図ることを目的に連携協定を結んでおり、協力して研究活動が行われています。

今回で地域連携事業の研究成果の紹介は最後となりますが、今後も石巻市と石巻専修大学は、様々な分野で連携していきます。

その6 地域の農水産業との協働を目指して ～オリーブ魚、マイクロ・ナノ技術を用いた農水産物の高品質化～

石巻専修大学では、生き物のからだのつくりや動き、行動や生態、免疫やストレス応答に関する基礎的研究に加え、魚介類の養殖や農水産物・食品の品質向上にかかわる応用研究を行っています。

例えば、市内で栽培されているオリーブを加えた餌で育てたギンザケ(オリーブギンザケ)づくりにも基礎研究の成果がちりばめられています。水産物としておいしいだけでなく、低温や高温下でも成長の遅れがなく、病気や環境変化に強い魚を育てるためには、魚の餌の嗜好性に加え、消化・吸収・代謝能力などを考慮した餌の開発を進める必要があります。これは残餌削減にも有効です。現在、高品質で温度変化にも強いオリーブギンザケづくりのため、海面養殖試験を進めています。

また、世界的食糧難や餌の高騰に対応するため、低タンパク質飼料の開発や糖利用の促進を目指した研究も進行しています。

さらに、沖で獲れた魚介類を良好な状態で食卓に届けるために、マイクロ・ナノ気泡や同アイス(氷)を利用したイカナゴ(コウナゴ)、マガキ、マボヤの高品質化を目指した研究も進めており、保存期間を通常の2倍以上に延長することが可能になりました。鮮度保持に関する知見や技術は、石巻圏内の企業などでも既に活用され始めています。



▲マイクロ・ナノアイスを用いたコウナゴの鮮度保持



▲マイクロ・ナノバブルを用いたマガキの細菌・ウイルス除去(浄化)試験

石巻市立桜坂高等学校

桜坂だより

第35号



こんにちは、桜坂高等学校です。
2月8日に1・2学年の進路実現に向けて「先輩に話を聞く会」が開催されました。
今月はその様子を紹介します。



希望する進路ごとに7つの部屋に分かれ、各方面で活躍する卒業生や進路が決定した3年生から具体的な話を聞くことができる時間です。



先輩方からの「高校在学中にしておくべきこと」や、「仕事選びのポイント」など実体験に基づく重要なアドバイスに生徒たちは深く傾きながら、真剣に聞き入っていました。



進路実現に向けての貴重な学びの時間となりました。

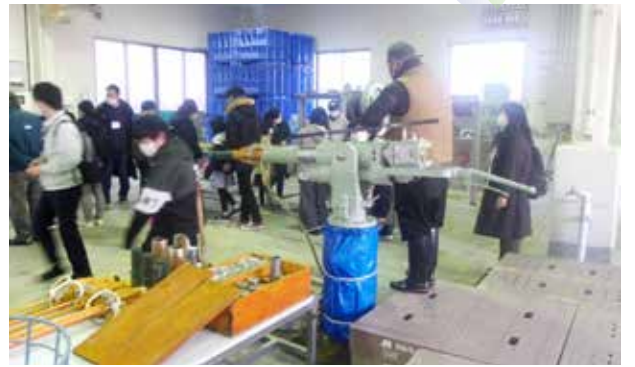
牡鹿 捕鯨産業を学ぶ

石巻くじら探訪ツアー



Topic of town まちの話題

2月25日、26日に「石巻くじら振興協議会」の主催により、鮎川浜で「石巻くじら探訪ツアー」が実施され、応募のあった市民52人が参加しました。ツアーは、石巻駅をバスで出発し、地元捕鯨会社の協力による鯨の解体場や小型捕鯨船の見学、おしかホエールランドによる鯨のひげのストラップ作りなどを体験しました。普段では体験できない内容に、参加者は、楽しみながら捕鯨についての理解を深めていました。



石巻 留学生や技能実習生が交流

3年ぶりじゃぱneeds塾

3月5日、総合福祉会館みなと荘で留学生や技能実習生を対象にした「じゃぱneeds塾」が開かれ、約50人が水産の街にちなんだ海鮮丼の食品サンプル作りに挑戦しました。飾るネタの種類に好みや人柄がにじみ出て、互いの絆や理解を一層深める機会にっていました。市が平成26年度に初めた同塾は、年に4~6回講座を開いてきましたが、コロナ禍で3年ぶりの開催になりました。



北上 室内でも“熱い”競技

北上公民館でポッチャ大会

パラリンピックの正式種目として、幅広い世代に親しまれる競技「ポッチャ」の大会が2月14日に北上総合支所の交流ホールで開かれました。北上公民館では、令和3年からパークゴルフやペタンクなどの様々なスポーツを楽しむイベントを行っており、冬季は室内で楽しめるポッチャを行っています。大会には地域の人たちが集まって得点を競い合いました。



河北 笑顔弾む「キンボール」

4年ぶりスポ少交流大会

「第11回河北地区スポーツ少年団交流大会」が、河北総合センタービッグバンで開かれました。コロナ禍の中止を挟んで4年ぶりの開催です。河北陸上、大谷地二俣野球、飯野川ダブルツリーズ、河北空手、河北剣道の各少年団から約70人が参加し、4人1組の13チームに分かれてニュースポーツの「キンボール」に汗を流しました。子どもたちは巨大なボールを打つ、キャッチするといった同競技の魅力を味わい、笑顔でコートを駆け回っていました。



河南 消防車で火災予防呼びかけ

消防団防火パレード

春の全国火災予防運動に先立ち2月26日、市消防団河南地区団の防火パレードが開催されました。河南地区団から31人、広域消防河南出張所からは7人が参加し、河南総合支所長、地区団長からの激励を受けた後、消防車など15台で、前谷地、鹿又の2コースに分かれて地区内をパレードし、火災予防を呼びかけました。



桃生 在チュニジア大使講話

桃生中国際理解深める

在チュニジア日本大使館の大菅岳史^{たけし}特命全権大使が2月8日、石巻市立桃生中学校を訪ね、全校生徒に講話しました。大菅大使は現地で撮影した写真を通して魅力を伝え、生徒たちは約30年続くチュニジアと桃生地区のつながりに関心を高めました。生徒と大使と一緒に世界の貧困の問題を考える場面もありました。



雄勝 大きくなって帰ってきてね

さけの稚魚放流

2月27日、大原川さけ人工ふ化場で飼育された、さけ稚魚の放流が行われました。今年は、北海道から発眼卵220万粒を移入して、本復旧した施設もフル稼働しました。この日は30万尾が放流され、合計で200万尾の放流を行いました。放流された稚魚はベーリング海を目指して大海原へ旅立ち、4年後に、大原川へと帰ってきます。今年も大きくなって戻ってくるよう願いを込めて放流しました。

